

平成23年度教育委員会事務点検評価(平成22年度実施事務事業)評価表

1 事務事業の基本事項

整理番号 6

事務事業の名称	公民館講座等運営事業		担当部課	教育委員会 生涯学習部 社会教育課		
			電話番号	04 - 2953 - 1111 内線 5672		
実施期間	平成 22 年度 ~ 平成 年度					
総合振興計画における位置づけ	5章	人を育み文化を創造するまちをめざして	実施計画(H22~24)事業名	公民館講座等運営事業		
	1節	生涯学習の振興				
	1項	生涯学習の推進	個別計画等の名称	狭山市生涯学習基本計画		
	2目	生涯学習の機会や場の拡充				
実施根拠	社会教育法					
事業区分	<input checked="" type="radio"/> 自治事務 <input type="radio"/> 法定受託事務 <input type="radio"/> 法定受託事務+自治事務					
事業開始の背景等	生涯学習の中核を担う社会教育の充実を図るため、社会教育(公民館)事業の実施において専任の職員による現代的課題や地域課題への取組みの強化が必要とされている。					

2 事務事業の目的・内容

目的	社会の変化に対応して、市民が豊かな生活を営むために、また、住みよい地域社会をつくるために学習しておく必要のある現代的課題や地域課題に関する学習機会の提供を行い、その学習をとおして地域を支える市民の育成と地域活動への参加を促進していく。					
対象	市民					
活動内容	公民館や市長部局関係各課、NPO等と連携を図りながら、社会教育(公民館)事業として現代的課題や地域課題に関する講座等を実施する。					
(下段)前年度の方向性に対する改善活動	(前年度方向性評価)					
環境配慮	講座資料を極力パワーポイント作成にするなど、紙の省力化に努めた。					
実施形態	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> 補助・負担 <input type="checkbox"/> その他()					

3 事務事業の実施状況と成果

区分	指標名	区分	単位	20年度	21年度	22年度	23年度	目標値の根拠・考え方	
(実施動向指標)	主催事業数	目標値	件			20	34	事業計画による	
		実績値				20			
		達成率				100.0%			
	講座等参加人数(定員が決まっているもの)	目標値	人			1,206	1,378		事業計画による
		実績値				1,216			
		達成率				100.8%			
	目標値								
	実績値								
	達成率								

4 事業費

		区分	単位	20年度	21年度	22年度	23年度	
経費	直接費	予算額	千円	0	0	1,200	1,193	
		決算額	千円	0	0	923		
		財源内訳	国県支出金	千円	0	0	0	
			その他特定財源	千円	0	0	0	
	一般財源		千円	0	0	923		
	人件費	従事職員数	人	0.00	0.00	2.96		
		人件費(従事職員数×平均給与)	千円	0	0	26,613		
		事業費計(直接費決算額+人件費)	千円	0	0	27,536		
効率性指標	指標名	参加者数				1,216	※1単位当たりの経費	
	単位コスト	参加者一人あたりのコスト				22,645		

5 事務事業の評価

◆第一次評価(担当課による評価)

項目	評価の視点	評価	評価理由
個別評価	必要性	5 前年度	環境、人権、少子高齢化など現代的課題や地域課題に関する講座は、趣味・教養的な講座と異なり市民の学習ニーズは高くないが、市民が社会の変化に対応し、心豊かな生活を営むために、また、住みよい地域社会をつくるためにはこうした学習機会を提供することは必要不可欠である。学習成果を基に人づくり、地域社会づくりが進めば狭山市そのものが発展していくことにもなる。
	有効性	5 前年度	活動目標の達成度、成果の向上、上位施策への貢献度、市民サービスの向上など
	効率性	4 前年度	講座の内容によっては、学習効果等をねらい高度な専門的知識を持つ講師を招くこともあるが、公民館で学習した成果を地域に還元するという観点や、現代的課題・地域課題は市民が連帯意識を持ちながら解決していくことが公民館活動としてのあるべき姿であるため、公民館利用者やボランティアに講師を依頼して実施するなど、経費面の節約と学習効果面を見ながら講座運営を行った。
<5段階評価> 5:極めて高い 4:高い 3:普通 2:低い 1:かなり低い <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 内容の見直し <input type="checkbox"/> 抜本的見直し <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 完了			
今後の方向性	社会の変化に対応して、人間性豊かな生活を営むため、また、住みよい地域社会をつくるために必要な現代的課題や地域課題に関する学習講座の内容を充実させ、引き続き公民館との連携を図りながら、市民に対し学習機会を提供していく。なお、市民の生涯学習に対する高まりのなかで、市民がいかに現代的課題や地域課題に関心を持ち、主体的に講座に参加していただくかが課題である。		

6 その他(学識経験者の意見等)

単発の事業として捉えるのではなく、他の事業や対策と連携させていくことが重要と思われる。担当課の評価にもあるとおり、単に講座に参加すればよいとするのではなく、まちづくりなどの地域活動に結びつけたり、団体間の連携につなげる対策を明確に立てておくべきであろう。元氣大学は、内容的には公民館の講座と区分けする必要があるのか否か、狭山市全体として住民の地域課題解決能力アップの仕組み作りの視点で再検討する必要があると考える。首長部局と教育委員会との関係性を含め、丁寧な再考を望みたい。